

2 公共施設・公共空間の景観づくり

ここでは公共施設や公共空間について、「道路」、「河川」などの種類ごとに景観に配慮すべき事項について示し、今後、町内で整備する公共施設・公共空間の指針とするものです。

(1) 道路

- 沿道の街並み（建物や敷地との境界部分）と一体となって、つい歩きたくなる道路景観を創出します
- 海や山など沿道の眺望に配慮します
- 維持管理に配慮します（部材選定、花壇の維持管理に参加しやすい設計など）

1) つい散歩したくなる豊かな道路境界部のデザイン（舗装材、植栽、側溝、照明など）

- ・沿道の建物や緑と一体的な景観となるように整備することで、つい歩きたくなる道路となるよう努めます。
- ・そのために民地との境界部、公園・広場との境界部あるいは緑化によって、沿道と一体的なデザインとなるよう心がけます。



接点の空間を美しく

出典：街並み景観形成基準
(山形県金山町)



道路と沿道敷地を一体的に計画した事例（道路舗装、敷地内の樹木、軒先の植木鉢や緑化）
(山形県金山町)

2) 視覚的にわかる歩行者優先の道路のデザイン

- 歩行者優先の道として計画すべき道路は、路肩にペイントする、舗装をアースカラーの脱色アスファルトなど暖かみのある色調の舗装とするなど、通常の道路とは違うことがわかるデザインに努めます。

歩行者が優先であることを視覚的に理解できる道路のデザイン例



路肩のペイント（東京都青梅市）



暖かみのある洗出しコンクリート舗装（福井県勝山市）



ブロック舗装（大分県臼杵市）



ゾーン 30 のペイント（茨城県つくば市）

3) 海への眺望に配慮した目立たない防護柵のデザイン

- 幹線となるような主要な街路は、景観に配慮した防護柵を使用します。
- 色彩は最も彩度が低く、海や山と調和するダークグレーを基調色とします。
- ガードレールは極力使用を避けて、ガードケーブルなど透過性の高い防護柵を用います。



海の眺望に配慮したシンプルな形状の防護柵の例

4) 町民と一緒に育てる道路景観づくり（街路樹・植栽など）

- ・地域の中心的な街路、玄関口になる街路、歩行者優先となる街路では、日陰をつくる街路樹や歩きたくなる道とするための植栽帯の設置などを検討します。街路樹を植える場合は、必ずしも並木にしなくても、交差点や角地などに適切な量を植えることも検討します。
- ・街路樹や植栽帯を設置する場合は、地域住民と話し合い、樹種や管理の方法などについて決定します。管理について地域住民のご協力をいただく仕組みづくりを検討します。
- ・公共用地に残置等があれば、スポンサー花壇を設置して、地域の企業や団体・個人に管理をお願いする手法も検討します。



住民によるおもてなし花壇づくり（大槌町町方）

5) 避難に配慮した道路のデザイン

- ・主要な避難路は普段も利用する動線として計画します。
- ・避難路の入口は目印となる高木を植えたり、照明を配置したり、サインを設けるなどしてわかりやすいものとします。
- ・避難経路に位置する道路法面は、できるだけ緩やかな法面とし、必要に応じて階段を設置するなど、避難にも配慮した計画とします。



避難路となる緩やかな斜面の計画模型
（大槌町赤浜）

6) シンプルな道路付属物（信号・標識・街灯・電柱）のデザイン

- ・道路付属物の整備について、調整可能なものはできるだけ一体的に整備し、シンプルなものとします。
- ・標識はできるかぎり統合して設置し、乱立しないようにします。
- ・街灯はシンプルなものを用い、暖かみのある夜間景観を演出する光とします。
- ・地域の幹線となる道路や歩行者優先の道路はできるだけ電線の地中化を検討します。

〔南三陸国道事務所の大槌町における景観整備の取り組み事例〕

●取り組みが予定されている路線

三陸沿岸道路【釜石山田線】大槌(仮称)～山田南

●景観形成の考え方

- ・陸中海岸国立公園特別地区の景観に配慮し、極力地形や環境の改変を避ける
- ・特に沢部にかかる橋梁については、集落に近接する区間もあることから、施工性、維持管理性、経済性に加えて景観的な比較評価を行い、形式を決定する。
- ・震災復興のリーディングプロジェクトとしての整備が必要。



景観整備に取り組む三陸沿岸道路【大槌(仮称)～山田】

提供：国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所

(国土交通省東北地方整備局ホームページより)

(2) 河川

- 地域のイベント、レクリエーションの場として活用され、人の息づかいが感じられる風景を創出します
- 地域の自然環境や生態系を次世代に継承できるように配慮します
- 子どもやお年寄りの利用にも配慮します（安全性、ユニバーサルデザインなど）

1) 地域の文化を育む景観づくり

- ・秋の祭りの一環で、大槌川において大槌稲荷神社神輿渡御^{みこしとぎょ}が行われるなど、川は地域の歴史・文化に深く関わってきました。また鮭の遡上や鮭のつかみ取り大会など季節が感じられる風物や行事もあります。
- ・こうした祭りや風物などの無形文化財的な景観も大切にしたい河川景観づくりを行っていきます。



大槌稲荷神社神輿渡御のようす
(大槌町)

2) イトヨを守る河川環境づくり

- ・大槌町には、町指定天然記念物「淡水型イトヨ」が生息しており、東日本大震災以降も生息が確認されています。源水川などの水質汚濁等を防止することなどにより、イトヨが生息する環境の保全に努めます。



イトヨ

3) 親水空間の形成とユニバーサルデザインへの配慮

- ・河川に親しめるように、水辺に近づく場所、水辺でゆっくりできる場所を整備します。
- ・その際には、お年寄りなどでも安全に近づくようスロープの設置等を検討します。



河川空間におけるユニバーサルデザインの例（岐阜県恵那市）

4) 連続して歩ける水辺づくり

- ・大槌川・小槌川の川沿いや堤防の上あるいは河川敷に遊歩道を設けて、水辺を連続して歩けるようにします。
- ・河川沿いに花を植えるなど遊歩道として景観づくりに努めます。
- ・川沿いは川を眺められるように、ガードレールではなく透過性の高い防護柵を設置します。



小槌川沿いの気持ちの良い道（大槌町）

(3) 海岸

- 大槌を代表する海浜の景観を大切にします
- 国立公園に指定されている海岸線の景観を大切にします
- 海岸の利用を促進します

1) 海をゆっくりと眺められる場所の確保

- ・ 蓬莱島や野島、吉里吉里海岸や浪板海岸など大槌を代表する海岸景観をゆっくりと眺められる場所を確保します。
- ・ 記念撮影できるポイントを整備します。

2) 砂浜や松原の再生

- ・ 津波によって失われた浪板海岸の砂浜や松原の再生に取り組めます。
- ・ ハマギクやハマナスなど海岸に特有の植物を活かした公園づくりなどに取り組めます。

3) 美しい海岸の利用促進

- ・ 国立公園に指定されている浪板海岸や筋山の海岸線などを、現在、環境庁が計画している潮風トレイルのコースに位置づけて利用を促進します。



蓬莱島をバックに記念撮影できるポイントを整備



震災後、多くのボランティアがガレキの撤去、海岸の清掃などを行った。きれいになった海岸で「ありがとうセーブル・海祭り」を開催。その中で「ハマギク植栽祭り」を行った（平成24年7月）
（宮城県セーブル町菖蒲田浜海岸）



松の苗を植えるための風よけを設置して松原の再生に取り組む（浪板海岸）

(4) 港湾・漁港

- 漁業等の生業が感じられる風景を創出します（働く人も風景の一部）
- 防潮堤などの構造物を整備する際は海への眺望、砂浜や海岸林の保全に配慮します
- 眺めの良い視点場の創出に配慮します

1) 漁業が醸し出す賑わいの景観づくり

- ・ 漁業等の生業がしっかり復活すれば、経済的な活力とともに、賑わいのある景観もよみがえります。
- ・ 一日も早く漁業等が醸し出す、賑わいのある漁港の景観形成を目指します。



漁業等の生業が醸し出す賑わいのある景観（大槌町）

2) 景観に配慮した防潮堤

- ・ 防潮堤の人工的なコンクリートをできるだけ緑化し、緑豊かな景観に配慮した防潮堤の整備を進めます。



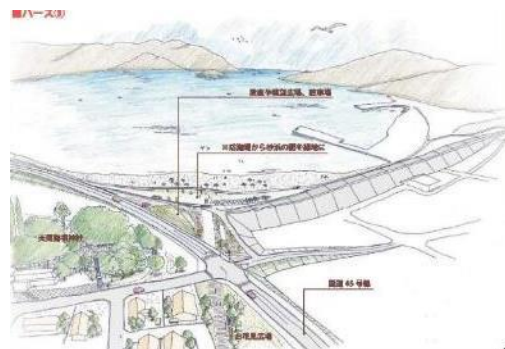
防潮堤に覆土して鎮魂の森を検討

3) 海への眺望を生かす視点場づくり

- ・ 防潮堤などの構造物は、東日本大震災以前よりも高い構造物となるため、海への眺望が半減してしまいます。このため、海への眺望に配慮した視点場づくりを進めます。

4) 海を楽しむ場所の確保

- ・ フィッシャリーナを再生して、以前と同様に鮭祭りのイベントなどを復活させます。



海への眺望（視点場）を考慮した防潮堤の計画例

(5) 公園・広場

- 地域（利用者）の声をよく聞いた上で公園・広場の景観を創出します
- 公園・広場ごとの役割分担や連携、遊歩道や海・河川等とのネットワークも考慮した景観を創出します
- 避難場所としての利用にも配慮します
- 近隣住民と話合って、管理や運営について考慮した公園の計画・設計とします

1) 地域の声を生かしたデザイン

- 公園をつくる際には、ワークショップの開催などにより、身近な利用者である地域の住民の声を良く聞いて、その意見を反映した計画や設計とします。
- 大槌町においては自噴井を活かした公園などについても検討をします。



地面より低い位置に水場がある大清水源泉部
広場（福井県勝山市）

2) 散歩道のよりどころとしての公園づくり

- 公園は単独の施設として計画するのではなく、複数の公園や街路と一体となった散歩道の構成要素として計画や設計を行います。
- 歩行者が休憩しやすいように、通りに面して四季を楽しむことのできる植栽をしたり、四阿^{あすまや}を配置したりします。



散歩の休憩の場となるよう通りに面して四阿を配置
（福岡県福岡市）

3) 避難を考えた公園づくり

- 公園は、有事の際は避難場所にもなるということを踏まえ、避難場所としてのアクセス性にも配慮した計画・設計とします。



避難場所としての利用も考えた公園計画の例

4) 鎮魂・祈りの場の設置

- ・町の事業として鎮魂の森や慰霊碑などを計画していますが、身近な場所に鎮魂・祈りの場を設けたいと考えている人は少なくないようです。町の中には今でもいろいろな場所への献花が絶えません。地域の中で話し合ってまちかどや小さな公園にそのような場所を設けることも考えて良いでしょう。



公園検討委員会によって検討された
震災モニュメント（六甲道南公園）

阪神・淡路大震災 六甲道南公園 震災モニュメント

直径約 80cm の円柱は、「阪神淡路大震災 1.17 のつどい」の竹灯籠の竹を、また、波状の凹凸は、北側は山を南側は海をイメージしています。震災から 10 年がたち建立された碑文には、「街が新しく生まれ変わってもあの日あの刻を検証し決して忘れることなく伝承していかなければなりません」と六甲道南地区で亡くなった 135 名の震災犠牲者への鎮魂の想いが記されています。公園管理会の「花クラブ」により手入れされた草花に囲まれ、子どもたちや地域の交流の場を温かく見守ってくれています。（協働と参画のプラットフォーム HP より）



震災慰霊碑でのろうそく法要
（長田区御蔵北公園）

阪神・淡路大震災 御蔵地区慰霊碑

1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分、大地震が起きた。此処で亡くなられた 127 名の合同位牌を当日の地図を刻んだ中央の石の下に埋めた。天井の星座は亡くなられた人々を示し、地図に合わせるとその場所を表す。御蔵通 5・6 丁目町づくり協議会が之を建てた。（震災発 HP より）



草花で装飾された石碑（遠野市）



流されて仮置きされている昭和
三陸津波の津波記念碑（浪板）

5) 昔のまち、被災の状況、復興の姿の現地での視覚化

- 震災前の町の写真を公園やまちかどに飾ったり、モニュメントを再現したり、公園にQRコードを貼ってスマートフォンをかざすと昔の写真や被災直後の写真が出てくるなど、かつての記憶を思い出すことができるような仕組みを検討します。また、来訪者が被災から復興まで定点観測した写真を順番に見られるようにすることも考えていきます。



スマートフォンにアプリを入れて景色にかざすとその場所の震災直後の風景が映し出される Yesterscape。2014 年 12 月現在 101 箇所写真が登録されている（出典：神戸新聞 NEXT ホームページ）



城山展望台からの眺望（左：震災前 右：震災後）



旭通り（左：震災前 右：震災後）

被災前、被災直後、そして現在の姿がわかるようにする

(6) 公共建築物

- 地域特性を生かしたモデル的景観を創出します
- 地域（利用者）の声をよく聞いた上で公共建築物の景観を創出します

1) 地域産材である木材の活用

- ・地域の産業にも寄与する取り組みとして、地域産材である県産材を多く活用した公共建築物の景観形成を検討します。



木造校舎で計画している大槌学園小中一貫教育校（大槌町）



地場産材をふんだんに用いた中学校
昭和60年に「地域住宅計画」を策定して、地場産材を活用する「木づかい事業」を継続（岩手県遠野市）

2) まちづくりのお手本となるような公共施設づくり

- ・公共施設はまちづくりのお手本になるようなデザインや施設構成となるようにします。



第8回の地域住宅計画賞（地域住宅計画推進協議会主催）を受賞した大ケロ災害公営住宅（大槌町）



緑に囲まれ美しく木造でデザインされた町営住宅（長野県小布施町）

3) 地域の声を取り込む仕組みづくり

- ・特に公民館や集会所などの公共建築物については、想定される利用者の意見を十分取り込むための仕組みをつくります。



安渡地区公民館ワークショップの様子

(7) 眺望点

- 町を見下ろす代表的な視点場である城山からの眺望を常に確保できるように努めます
- 大槌町の海、山、川といった自然を眺めることのできる場所を大切にします

1) 城山を代表的な視点場に位置づけ眺望を確保

- ・公民館前および城山山頂の両方について、代表的な視点場と位置づけます。
- ・樹木等が眺望を阻害しないように伸びた枝を剪定し、町への眺望を確保します。
- ・代表的な視点場にベンチなどを配置します。

2) 優れた眺望点を選定して視点場として整備

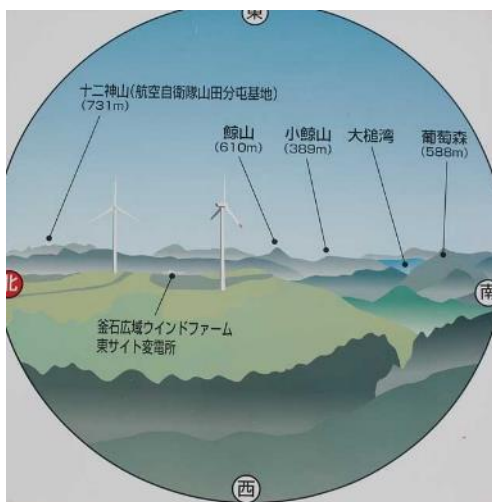
- ・町内の主要な眺望点を選定して、視点場として整備します。
- ・町の見所をガイドマップなどで紹介し、ベンチを配置し、記念写真が上手に撮影できるような場を設定します。



代表的な眺望点である城山からの眺望

3) 眺望の解説板の配置

- ・見えている山や建物が何かわかるような解説板を現場に設けます。



新山の展望台に設けられている解説板

(8) 公共サイン

- 原則として公共で整備する案内サイン、誘導サインは町全体で統一したデザインとし、必要最小限の整備にとどめます。
- 町外からの来訪者があることを考えて、避難路を知らせるため、あるいはまち歩きを楽しむためのサインを適切に配置することを検討します。

1) サインによる避難路・津波避難場所の案内

- ・主要な避難路・津波避難場所について来訪者でもわかるように、JIS が推奨する全国共通の案内サインを掲示します。ピクトグラムだけではなく必要な最小限の情報を加えてサインをデザインします。

①津波注意標識の例  津波注意標識の図記号 (必須) 注意, 津波災害警戒区域であることを記載 (補助表示) 海拔 (補助標識)	②津波注意標識の例 
③津波避難誘導標識の例  避難方向矢印 (必須) 津波避難場所までの距離 津波避難場所を表す図記号 (必須) 津波避難場所であることを記載 津波避難場所の名称を記載してもよい。	④津波避難場所標識の例  津波避難場所を表す図記号 (必須) 津波避難場所の名称 (英語併記の例) 海拔

JIS の推奨する津波避難に関する案内サインのデザイン

2) まち歩きを楽しむサインを計画する

- ・まち歩きのルートを示す誘導サイン、案内サイン、まちの歴史や魅力を紹介する名称サインや解説サインなどを適切に配置して来訪者でもまち歩きを楽しめるように努めます。



統一された案内サイン（岡山県倉敷市）